

**2025年3月期第3四半期決算
Global Conference Call 質疑応答録**

日時:2025年2月12日(水)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO、財務統括 兼 管理統括 後藤 芳光
常務執行役員、CSusO、経理統括 君和田 和子
SB Investment Advisers & SB Global Advisers, CFO, Navneet Govil
Arm, Executive Vice President and Chief Financial Officer, Jason Child

質疑応答

質問者1

Q1:

Stargate についての質問です。1,000 億から 5,000 億米ドルの総予算の中で、SB Energy Global とは契約上の取り決めや関与はありますか？

A1:

(後藤) SB Energy Global は、米国で長年にわたり発電事業のプロジェクトを手がけており、今回のようなプロジェクトにおいても、特に発電事業の分野でその経験を活かせると思います。そのため、この分野で関与する可能性は十分にあります。

Q2:

SB Energy Global の立場は他の発電会社と同じだと想定していますが、例えば、Stargate Project が特定の設備を調達する場合、SB Energy Global は優先的に入札する機会がありますか？ それとも、他の企業と同じ条件で競争入札に参加する形になりますか？

A2:

(後藤) メガデータセンターとして Stargate が取り組む場合、電力発電装置については、基本的にデータセンターに電力を供給することを最優先に考えるストラクチャーになる予定です。

Q3:

クリスタル・インテリジェンスに関する質問です。ソフトバンクグループは OpenAI と独占的な関係にあると説明されたと思いますが、それはクリスタル・インテリジェンスの一部として開発される AI エージェントに限定されるのか、それとも OpenAI のすべての製品に対して独占性を持っているのか、その範囲について教えてください。

A3:

(後藤) 発表している内容のとおりです。クリスタル・インテリジェンスを法人向けにサービス提供します。そのサービスの販売については、まずソフトバンク株式会社に優先権があるという契約になっています。

Q4:

ソフトバンクグループのみがそれを販売するのですか？

A4:

(後藤) ソフトバンク株式会社が販売することになります。最初の顧客はソフトバンクグループになると思います。

Q5:

ソフトバンク株式会社を通じて販売するサービスについて、ソフトバンク株式会社およびソフトバンクグループ各社は、日本国内でそれらの製品に対する独占権を持っていますか？

A5:

(後藤) 改めて整理しますと、販売の独占権を持つのは、通信会社であるソフトバンク株式会社です。最初の顧客はソフトバンクグループ全社であり、まず持株会社であるソフトバンクグループが 30 億米ドルを支払います。その後、グループ各社が利用した分に応じて、当社が各社から対価を受け取る形のストラクチャーを基本的に想定しています。具体的な数字や内容等についてはこれからになります。

質問者 2

Q1:

質問が二つあります。まず、アセットバック・ファイナンスの拡大余地についてお聞かせください。アーム株式を担保にした借入の増額について言及されていましたが、もし追加で資金を調達する必要がある場合、アセットバック・ファイナンスにはまだ余裕はありますか？

A1:

(後藤) 現在、アセットバック・ファイナンスの余裕は十分にあります。ご存じのとおり、現在のアームの価値は大きく、当社の保有分も相当な金額となっています。そのため、将来的な財務の柔軟性を確保するために、アセットバック・ファイナンスの活用を検討する可能性はありますが、現時点で必要としているわけではありません。

Q2:

二つ目の質問ですが、Stargate Project において、どのようなタイプのレンダーをターゲットにしているのでしょうか？

A2:

(後藤) レンダーに関して、プロジェクトファイナンスのデットサイドはいくつかのトランシェに分かれると思います。シニアローンやメザンローンに加え、場合によってはプリファード・エクイティなどをストラクチャーするかもしれません。それぞれのリスク・リターンに応じた専門性を持つレンダーが、適切なトランシェを選択できるような商品設計をしていきたいと思っています。

Q3:

Stargate のスケジュールについて、もう少し詳しくお聞かせいただけますか？ データセンターの設立には非常に長い時間がかかると思いますが、4 年間にわたって投資を実行すると言及されている中で、各プロジェクトの期間はだまかにどの程度を想定しているのでしょうか？ また、実際にこれらのプロジェクトが本格的に動き始めるタイミングについて、どのようにお考えでしょうか。

A3:

(後藤) 現在まだ、スケジュールについても開示できる段階ではありませんので、開示できる段階まで少しお待ちいただきたいと思います。ただ、本日の説明会で申し上げたとおり、プロジェクトごとに異なります。一つ一つのプロジェクトがいつスタートして、いつクローリング予定かというようなスケジュールを、一つ一つ皆さんにご説明していく形になるだろうと思います。

質問者 3

Q1:

Stargate について、現在の持分の状況について詳しくご説明ください。どのように連結されるのでしょうか？

A1:

(後藤) Stargate のエクイティ出資割合については、現在まだ議論中で、開示しておりません。決定次第、開示させていただきます。ただ、ソフトバンクグループと OpenAI、この 2 社が中心になるという点は言えると思います。

Q2:

Ampere への直接投資や OpenAI についての報道が多くみられます。これらについてはコメントしないものと承知していますが、今後 3~6 カ月の間に投資するとなった場合、最大どの程度の金額規模になりますか？また、より短期間で大規模な投資を行う場合、どのように資金を調達しますか？

A2:

(後藤) それを規定するのが、当社の財務方針ということになります。私たちが LTV で 25%未満のレベルで運営できるような範囲であれば、追加の投資を行いますし、現在の LTV が 12.9%ということから、まだ相当な余力があると考えています。

Q3:

それには当然マージンローンは含まれていないため、理論上はマージンローンを最大限まで活用でき、その場合でも LTV は変わらないという理解で良いでしょうか？

A3:

(後藤) 当社が定義している LTV の計算に従って、25%未満で運営することをポリシーとして規定しています。

質問者 4

Q1:

二点質問があります。一点目は、SVF についてです。今回、投資家向け説明会資料の SVF 編で、未公開投資先が 15 億米ドルの損失という数字を見て驚きました。データシートを見ると、未公開投資先において、SVF1 で 8 億米ドルの損失、SVF2 で 9 億米ドルの損失となっています。ただ、先ほど Navneet さんは、損失はほとんど為替の影響と言っていたと思いますので、そうであれば心配はないのですが、この背景を今一度ご説明いただけないでしょうか。

A1:

(Govil) ファンドごとの内訳をお伝えします。SVF1 は 10 億米ドルの損失を計上しましたが、そのうち約 9 億米ドルは Coupang によるもので、主に韓国の政治情勢の影響を受けた結果です。つまり、SVF1 の損失の最大の要因は Coupang でした。SVF2 については、12 億米ドルの損失を計上しました。そのうち約 2 億米ドルは公開投資先、約 9 億米ドルは未公開投資先の損失でした。この最大の要因は為替変動で、約 9 億米ドルが対米ドル為替の下落によるものです。特に、日本円は前四半期比で 9% 下落し、インドルピーは 3% 下落しました。今回、ごく少数ですがパフォーマンスの再評価がありました。これは毎年実施していることですが、ポートフォリオ企業から今後 3 年間の業績予想を提出してもらい、それに基づいて評価額を調整しています。LatAm ファンドはほぼ横ばいで、約 1 億米ドルの損失でした。

Q2:

データシートでは、SVF1 も損失は未公開投資先からと読めるが、それは正しいでしょうか？

A2:

(Govil) その通りです。当社には約 400 社以上のポートフォリオ企業があり、それぞれの評価額に増減が発生していますが、私が説明しているのは最も大きな要因についてです。もちろん、個々の投資のパフォーマンスによる影響もあります。ある投資では 2,000 万米ドル、別の投資では 1,000 万米ドル、さらに別の投資では 1,500 万米ドルといった形で、こうした影響が 50 件ほど積み重なることもあります。ただし、それらは他の要因によって相殺されることもあります。繰り返しになりますが、SVF1 の損失の最大要因は Coupang で約 9 億米ドルの損失でした。SVF2 の約 9 億米ドルの損失の主な要因は為替変動でした。LatAm ファンドは約 1 億米ドルの損失で、ほぼ横ばいでした。

Q3:

Coupang についてはその通りですが、SVF1 の未公開投資先の 9 億米ドルの損失は、何なのでしょう。

A3:

(Govil) SVF1 には、小さなプラスやマイナスのものが多く、それらは概ね相殺され、こうした増減をすべて考慮すると、最終的には SVF 全体で 10 億米ドルの損失となりました。その最大の要因は Coupang です。

Q4:

もう一点、後藤さんに質問です。SB OpenAI Japan について混乱しています。約 4,500 億円である

30 億米ドルの支払いについて、ソフトバンク株式会社は従量制、つまり使った分だけ払うとい認識で、それ自体に問題はないと考えています。しかし、例えばソフトバンク株式会社の利用額が数百億円にとどまった場合でも、ソフトバンクグループが SB OpenAI Japan に対して 4,500 億円を支払う必要があるということでしょうか？つまり各社の利用の有無に関わらず、ソフトバンクグループは 4,500 億円を支払う義務があるのでしょうか？

A4:

(後藤) まず、30 億米ドルを支払う契約にてソフトバンクグループがサービスを引き受け、その後、グループ各社が使いたい分だけ使っていただく形になります。グループ各社としては、「ペイ・フォー・ユース(使った分だけ支払う)」という考え方になると思います。もちろん、未使用分が発生した場合は、ソフトバンクグループの負担となる可能性があります。ただ、これは初回の取引であり、今後さまざまな調整が行われていくことになると思います。私たち自身が試験台となっているような感じでもあり、もう少し時間をかけながら皆さんにもご報告していきたいと思います。

Q5:

そこが心配で、例えばソフトバンク株式会社が 1,000 億円しか使わなかったら、ソフトバンクグループで 3,500 億円の赤字が出てしまうのですが、恐らくそんなことにはならないだろうということでしょうか？

A5:

(後藤) まずはサービスの内容をしっかりと確認した上で、それをグループ各社がどの程度使うかを検討する必要があります。ですから、先ほど申し上げたとおり、これは初回の取引であり、現時点ではサービス自体が確定しておらず、具体的にお話しできるレベルに達していません。まずはサービスのローンチを待って、それから具体的な数字の議論をしたいと思います。

Q6:

アーム株のマージンローンの今後の拡大余地をどう考えれば良いでしょうか。御社のアセットの中でアームの資産価値が最大なので、今回 50 億米ドルの増額をされ、1 銘柄では史上最大級とも書かれていますが、これはまだ増額する余地はあるのでしょうか。もちろん、金融機関次第だとは思いますが。

A6:

(後藤) アーム株を活用したマージンローンのさらなる増枠の可能性については、いくつかの観点から考える必要があります。もちろん、アーム株自体に大きな価値があるわけですが、マージンローンとして調達する場合、株式の流動性も重要な要素となります。現在、当社はアームの株を 90%保有しており、マーケットには 10%しか流通していません。このように流通量が少ないというのは、全体の取引の余力を少し制約する要因になると思います。

Q7:

偶然にも全く同じ 50 億米ドルが SVF2 のコミットメントとして増えています。50 億米ドルは SVF2 に拠出されたのでしょうか。

A7:

(後藤) 偶然です。

質問者 5

Q1:

一つ目の質問は DeepSeek に関連するものです。ソフトバンクグループが投資している OpenAI と比較して、オープンソースモデルが直面する課題には、コストや効率性などの要素は含まれるでしょうか？ また、そうした課題は、中国のテクノロジーセクターなどへの投資戦略に影響を与えるのでしょうか？ 二つ目の質問ですが、ソフトバンクグループは米国で大規模な投資を行う予定で、現在は日本での投資も拡大しています。優先順位や資金の使い方の観点から、この大規模な投資のバランスをどのように取るのでしょうか？

A1:

(後藤) DeepSeek については、まだ一般に広がり始めたばかりです。OpenAI を含む多くの技術者やエンジニアからも DeepSeek についてのコメントが正確に出揃っていない状況下で、エンジニアではない私が正確かつ詳細なコメントをするのは難しいです。

次に、投資の優先順位という点では、ソフトバンクグループは常に AI に関連する投資をグローバルに行っています。SVF を通じた投資に加え、自社資金による投資も行っています。また、Stargate のようなビークルを通じて、米国におけるデータセンターやインフラ関連のビジネスへの投資も積極的に行っています。今後も、AI 関連の投資に対してグローバルな視野を持ち、重点的に取り組んでいきます。

Q2:

米国での 1,000 億米ドルまたは 2,000 億米ドル規模の投資は、SVF を通じて行われるのでしょうか？

A2:

(後藤) これは、トランプ氏と孫と一緒に話した内容のことを指していますか。

Q3:

はい。

A3:

(後藤) 孫は確かに言っていました。それは米国への投資ということで、例えば Stargate ももちろんその一環でしょうし、それ以外に SVF を通じた米国内での投資も含まれると思います。

質問者 6

Q1:

一つ目の質問は Stargate についてです。Stargate に関する報道の中には、キャパシティ全体が OpenAI 向けであるとありますが、それは事実でしょうか？ それとも、OpenAI 以外のクライアントにも提供されるのでしょうか？ 二つ目の質問ですが、このプロジェクトの総額は最大 5,000 億米ドルとさ

れていますが、次のフェーズへの投資は最初のフェーズの利用状況に依存するのでしょうか？

A1:

(後藤) まず、Stargate のサービスやデータセンターなどを利用するユーザーについては、現時点では OpenAI を中心に考えています。また、4 年間で 5,000 億米ドルの投資となりますが、もちろん 3 年後、4 年後の状況を今の段階では正確には予測できませんので、OpenAI 以外のクライアントがいる可能性についても分かりません。その時点の状況によっては、検討の余地はあるのかもしれませんが、ただしまずは、OpenAI を中心に考えています。

Q2:

この投資の ROI(投資収益率)について、何か共有いただける情報はありますか？定量的な数値でなくとも構いませんので、リターンの見込みについて何か示唆をいただけますか？

A2:

(後藤) 現時点ではまだ数字についてお話しする段階ではありません。まずはプロジェクトごとにそういった数字のご説明を申し上げることになると思います。最初のプロジェクトに取り組む段階で、そういった数字についての議論をさせていただきたいと思います。

質問者 7

Q1:

ソフトバンクグループは、OpenAI に対する年間 30 億米ドルの利用料の支払いを、いつから開始する必要があるのでしょうか？また、ソフトバンクグループの関連企業(たとえば LINE ヤフー、ZOZO、ソフトバンク株式会社など)が 30 億米ドルの予算をすべて使用しなかった場合でも、ソフトバンクグループは OpenAI に対して 30 億米ドルを支払う必要があるという理解でよろしいでしょうか。

A1:

(後藤) この 30 億米ドルをいつ支払うかということも、現在まだ決まっていません。言えることは、サービスが明確に完成し、ローンチした後に支払いが開始されるのが基本的な考え方だということです。また、グループ各社がこれを利用しますが、もし万が一、「パイ・フォー・ユース」の考え方に基づいて各社が使っても残っているポーションが発生した場合、それはソフトバンクグループの負担となります。ただし今回私たちが第 1 号顧客となるため、さまざまなテストを行う意味合いも含まれています。そういう観点で、第 1 号顧客としての私たちの取り組みを見守っていただきたいと思います。

Q2:

この支払いは、特定の条件が満たされることを前提としているのでしょうか。たとえば、この 30 億米ドルの支払いには、一定の期限が設けられているのでしょうか。この件についてもう少し詳しくご説明いただきたいです。ソフトバンクグループにとってかなり大きなコミットメントのように思われます。

A2:

(後藤) サービスの費用である以上、サービスの内容が決まっていない段階で支払いを行うわけにはい

かないと考えています。従って、まずはサービスを完成させることが最優先で取り組むべきことだと思います。

Q3:

Stargate Project と OpenAI への出資は、互いに関連しているのでしょうか？例えば、イーロン・マスク氏が OpenAI の買収を申し出ているとの報道がありますが、これにより OpenAI の営利企業化が遅れる可能性があります。もしそうなった場合、Stargate Project にも遅れが生じるのでしょうか？

A3:

(後藤) つい最近、イーロン・マスク氏が OpenAI に対する買収提案を行ったというニュースを見て、私も少し驚きました。しかし、彼らは競合する関係ですから、さまざまなやりとり、駆け引きがあっても不思議ではないと思います。それを受けるかどうか決めるのは OpenAI の取締役会でしょうから、私たちは状況を静観したいと思います。もちろん私たちと OpenAI との関係というのは揺るぎのない関係であるということは申し上げるまでもありません。

Q4:

もし OpenAI への出資が遅れることになった場合、Stargate Project にも遅れが生じるのでしょうか？

A4:

(後藤) このイーロン・マスク氏の提案が、私たちと OpenAI のジョイントビジネスに何らかの影響を与える可能性もあるかもしれません。ただ、現時点ではそのような動きは見られないと考えています。

Q5:

仮に NVIDIA のシステムが 10 万米ドル分販売された場合、アームがそこから得られる収益の規模はどの程度になるのでしょうか？

A5:

(Child) NVIDIA のサーバーの財務的な影響についてのご質問ですが、特定のパートナーに関するロイヤルティーの詳細は公表できません。ただ、大まかな仕組みについては説明できます。一般的に、v9 のカスタムサーバーチップ(Grace のようなもの)に対しては、コアあたり約 50 セントのロイヤルティーが発生します。私の理解では、現在の Grace Blackwell の構成では、1 つの Blackwell に 72 コアの CPU チップが使用されているため、計算すると 1 チップあたり約 36 米ドル程度になります。ただし、具体的な構成がどのようになっているのか、また、それがご提示の 10 万米ドルという基準とどの程度の関係があるのかについては、正確な数字を把握していません。とはいえ、CPU と GPU の価格関係のイメージを持っていただくには、これが参考になるかと思います。

Q6:

Blackwell はおおよそ 1 システムあたり 5 万米ドル程度ではないのでしょうか？

A6:

(Child) おおよそその価格帯に収まるかと思います。もしそうであれば、1 万米ドルのシステムに対して、アームの取り分は 100 米ドル程度になる計算になります。

Q7:

つまり、おおよそ 10 万米ドルの支出に対して、Blackwell は約 72 米ドルの収益を生むという理解でよろしいでしょうか？

A7:

(Child) はい。我々のモデル上の平均に基づくと、その程度の範囲になるかと思います。

質問者 8

Q1:

アーム、Graphcore、そして現在は OpenAI と連携しながらデータセンター事業にも直接関与されていくとのことですが、ソフトバンクグループとして、半導体設計への関与をさらに強めることについての展望や優先順位をどのように考えていますか。特に、OpenAI のような顧客向けに半導体設計を手掛ける可能性について、どのような方針をお持ちでしょうか。

A1:

(Child) 設計能力をさらに拡張する可能性は十分にあると思います。ただ、現時点では最近の Stargate Project に特に期待を寄せています。私たちは事実上、技術パートナーとして優先的に選択される CPU というポジションにあり、それが当面の焦点です。AI データセンターへの投資規模を考えると、数百万規模のチップ(GPU や CPU)が展開されることになり、これは当社にとって非常に大きなビジネスチャンスです。それ以上の展開について可能性はあるものの、現時点では会社として正式に発表しているものではありません。

質問者 9

Q1:

財務に関していくつか伺います。

まず、今回、アームのマージンローンの借入枠の拡大を含めて手元流動性を 5 兆円まで拡大されました。一方で、向こう半年間の御社のキャッシュアウトを考えた際に、SVF からのアーム株の買い戻しの分割払い、自社株買いの残り約 3,000 億円の枠、さらに約 1.5 兆円の投資余地があります。あとは、先ほど四半期で 20 億米ドル程度の水準が新規投資の金額の一つの目安になるという話をされていました。もちろん、将来的な SVF からの分配金や、資産売却等々による回収余地があることは理解しているのですが、アーム株の買い戻しの分割払い、自社株買い、新規投資等々を含めると、手元流動性が約 3 兆円まで減ってしまう可能性があるのではないかと考えています。

社債の 2 年分の財務規律は満たされていることは承知していますが、過去 1-2 年と比較すると、御社の手元流動性の水準が下がってしまうという点が、クレジットの視点としてどう捉えたらいいのかと考えている状況です。

ぜひ、後藤さんの中で、逆に規律を満たしているから全く問題ないというお話なのか、何かしらの手段

で今の 5 兆円の手元流動性の水準を維持する方針なのか、お考えをお聞かせください。

A1:

(後藤) まず 5 兆円の水準を維持することは全く考えていません。その必要性も感じていません。そもそも、2 年分の社債償還資金を確保することだけでも相当な余裕があると思っているので、その水準を、余裕を持って上回っていれば十分だろうと思います。また、先ほどおっしゃられた資金使途の計算も実際と少し異なるという気がしています。いずれにせよ財務規律を余裕を持って維持できる範囲内であれば、いろいろな自由演技があって良いのではないかと考えています。

Q2:

最後に一点、気が早い話になりますが、ハイブリッド債の初回コールのお考えについて、改めてお聞かせください。2026 年にコールを迎えるハイブリッド債がいくつかあり、これまでの御社の財務ポリシーに鑑みれば、初回コールでの返済というのは全く心配していないのですが、格付けの基準上、12 カ月前からであればリファイナンスでリプレイスメントとしてカウントされるという認識です。そうすると、早いもので今月からハイブリッド債を起債した場合、それがリプレイスメントとして認められるのではないかと考えています。

質問としては、現時点での後藤さんのお考えの中で、昨今のクレジットもしくは金利環境を踏まえて、ハイブリッド債をできれば前倒しでリプレイスメントされていく意向なのか、またはもう少し様子を見て、コールが近いタイミングでリファイナンスを検討しているのか、今の考えを教えてください。

A2:

(後藤) 私たちが起債しているハイブリッド債などについては、これまでお伝えしているとおり、ファーストコールのタイミングで確実にコールを実施する方針です。そのため、基本的にはリファイナンスを行うことになると思います。余裕を持って考えていきますが、慌てて行う必要もないので、環境などを鑑みながらタイミングは決めていくことになると思います。現在、ご指摘の通り、若干の金利上昇が感じられる状況です。そのため、少し早めの準備を進める可能性もあるかもしれませんが、金利動向についてもう少し様子を見ないと分かりません。より重要なのは市場の需要だと思います。市場の状況を、証券会社を通じてしっかりとヒアリングしながら、起債のタイミングを決めていきたいと考えます。

質問者 10

Q1:

二点お伺いしたいのですが、まず、Stargate Project の 5,000 億米ドルという数字の御社内での位置付けについてお伺いしたいと思います。これはほぼコミットメントだと考えて良いのでしょうか。また、もし 4 年間で 5,000 億米ドルという数字を達成しなかったときのレピュテーションリスクについてはどのようにお考えですか。

A1:

(後藤) この 5,000 億米ドルというのは計画です。計画である以上、達成しない可能性もありますし、その場合はレピュテーションリスクが発生するかもしれません。ただ、最も重要なことは OpenAI が必要なデータセンターサービスを Stargate Project がきちんと提供できていることだと思えます。

Q2:

もう一点お伺いしたいのが、一般的な話になるかもしれませんが、OpenAI 向けのデータセンターということで、利用保証契約などの締結は予定されているのでしょうか。もしそのようなものを結ばなかったときに、プロジェクトファイナンスのエクイティポジションの比率などに影響が出る可能性はあるのでしょうか。

A2:

(後藤) 契約の詳細については、現時点でお話しできる段階にはありません。ただ、プロジェクトファイナンスの組成をする上で、いくつか重要なテーマはあると思います。オフテイクするにあたって、レンダーたちがどのような情報を必要とするかを十分に念頭に置きながら、適切なストラクチャリングを検討していきたいと思います。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下 SBG と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券と同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びこれらの関係会社を含む SBG の子会社(以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」)及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SB ファンド(ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現

リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。